

小児期における給食の実態（オ5報）保育所給食の各食品相互関係とその地域比較

甲子園短大 富田絹子 西田美枝子 ・山下慶子

目的

昨年度の本大会において、保育所給食の食構成は、地域により、やや異なることを報告したが、更に S市を加えて、各食品間の相互関係を明らかにし、その地域比較を行ったので報告する。

方法

調査対象は、4報と同様である。追加した S市について、昨年度と同様、国民栄養調査食品群別表に基づき、食品群を分類し、各々について、年間 $\bar{x}$, SD, CV, を算出し、3才以上児、未病児別に、15項目間の相関行列を作成し、3市の比較を行った。

結果

1) 食品群の3市比較。3才未満児、以上児とも、S市給食は、他市と比し、穀類、油脂類の摂取量が高く、N市給食は、菓子類、緑黄色野菜が高く、七検定による有意差を示した。

2) 各食品間の相関行列。相関係数が、1%水準で有意であるもので、3市に共通しているものは、「米類と麦類」、「麦類と豆類」、「麦類と魚介類」、「魚介類と肉類」に負の相関がみられ、「米類と豆類」、「油脂類と肉類」、「米類と魚介類」に正の相関がみられた。さらに2市に共通して、相関のあったものは、A市とN市で、「菓子類と乳類、果実類」、「油脂類と仰類」、「豆類と肉類」に負の相関、N市とS市で、「米類と果実類」、「麦類とその他の野菜」、「油脂類と豆類」、「その他の野菜と魚介類」に負の相関、「麦類と果実類」、「その他の野菜と肉類」に正の相関、A市とS市で、「米類と肉類、油脂類」、「麦類といも類、豆類」、「肉類と仰類」に負の相関がみられ、地域によって、異なる傾向を示した。